

博士学位請求論文要旨

題名：内モンゴル東部農村地域におけるモンゴル族男性の結婚難に関する研究
—ライフストーリー分析の視点から—

中央大学文学研究科社会学専攻博士課程後期課程
烏英嘎

研究背景及び目的

本論の目的は、当事者であるモンゴル人未婚男性がいかに自らの人生を振り返り、自身の結婚難を意味づけ・解釈しているのか、またその語りが加齢と共にどう変化しているかを明らかにする。そして、モンゴル人未婚男性の親の意識やもう一人の当事者である未婚女性の結婚意識を把握し、それぞれがいかにモンゴル人未婚男性の結婚の成否に影響を与えているのかを解明することを目指す。

近代社会で、都会に比べて農村男性の結婚難が深刻なのは、世界的に共通した傾向である。現在に至るまで、中国における男性の結婚難に関する研究は一定の蓄積があるものの、まだ十分と言えない。既存の研究では、マジョリティである漢族の未婚男性に焦点を当てた研究が一定の成果を上げている一方で、結婚難の問題が比較的遅れて顕在化した少数民族地域、特にモンゴル族の未婚男性の結婚難に関する研究は、依然として少数にとどまっている。また、男性の結婚難問題に関して量的な質問紙調査から分析するのが一般的であるが、当事者である未婚男性の意味世界への考察がまだ不十分である。先行研究では、男性の結婚難に関して、出稼ぎ活動の活発化により、女性の通婚圏が拡大し、結婚相手選択肢が増え、意識変容が起こっているが、男性の通婚圏が制限され、出会いが少なく、結婚が難しくなっていると主張している。男性の結婚難に関して、このような客観的な事実分析や要因分析は大事であるが、このような状況下で、結婚難に陥っている当事者である未婚男性が結婚難をどのように経験し、受け止めているのかという意味世界を明らかにすることも必要であると思われる。

分析枠組

本論では、ライフストーリー法を用いて分析する。ライフストーリー法を採用する理由として、中尾元（2021）が指摘しているライフストーリー分析の強みである（1）客観主義的な見方でのいわゆる「事実」の把握よりも、語り手の意味世界を把握しようとする立場、（2）時系列的な変遷や変化などプロセスの観点を取り入れる調査の二点を参照したいと思う。

- （1） 男性の結婚難に関して、客観主義的な事実分析が大事であるが、結婚の当事者である若者の意味世界の立場からの分析も必要であると思われる。そのため、まず、同年齢層の既婚男女と未婚男女の語りから、調査地の結婚事情の実態を把握する。次に、結婚

難の当事者である未婚男性が過去にいかなる人生体験をし、独身であることをどう解釈し、受け止めているかを明確にする。最後に、補足として、親の語りから、自分の息子と将来の嫁にいかなる要求や期待があるのか、そしてその理由及び未婚女性の結婚相手への期待や将来の生活計画等が未婚男性の結婚意識への影響を把握する。

- (2) 先行研究では、一時点の政策や社会現象に焦点をおいて結婚難の要因分析をすることが多く、時系列上から男性の結婚難問題を捉えた研究はまだ少ない。そのため、本論では、当事者であるモンゴル人未婚男性が第一回目の調査時にいかに自らの人生を振り返り、自身の結婚難を意味づけ・解釈しているのか、また6年後の第二回目の調査でその語りが加齢と共にどう変化しているかを明らかにする。それを通して、未婚男性たちが置かれている社会的状況と、その社会的状況への人々の適応について考察する。

以上のように、若者たちが自らの「結婚」「結婚難」をいかに物語のか、いかに理解・解釈し、変化しているのかといった視点から解明するには、ライフストーリー法が最も相応しいものであると思う。インタビューの場で構成された語り手のライフストーリーを十分に理解し、分析するために、調査者（筆者）の立場性を明確にしなが、語り手による語りの意味付け、解釈を考察したいと思う。

以下では、論文構成の概略について説明する。

第1章 モンゴル族の結婚形態の変容

第1章では、本研究の調査地の結婚形態の変容の背景を理解するため、中国モンゴル族の結婚の変化に関して、中華人民共和国成立以前及び建国初期の結婚の特徴、結婚難に至る以前の結婚の典型を紹介する。次に民族通婚の増加現象を流動人口の民族通婚と農村地域の民族通婚に分けて述べる。中華人民共和国建国前から結婚難に至るまで、モンゴル族の結婚過程は大きく変容していた。まず、結婚相手との知り合うきっかけに関して、親同士の取り決め婚、血縁の中の長輩による取り決め婚、仲人の紹介、親戚や友達からの紹介、自分で知り合うというように変容してきた。また、結婚の過程で重要な位置を占めている婚資に関して、解放前から存在し、主に家畜を贈り、裕福な家庭と貧しい家庭で贈る数が異なっていた。一部の牧畜地域で、女性側の親が娘に嫁入り道具として、家畜と物を贈る習慣がある。1950年代以降は現金や物が圧倒的で、家畜は少なく、特に、半農半牧地域のモンゴル人において現金や物になってきた。次に、モンゴル農村社会では、1960年代以降、民族通婚が増加し、モンゴル族の流動人口で通婚家族や他民族の結婚相手を希望している若者の割合が高いが、モンゴル族が集中している地域のモンゴル族が他民族混居地域のモンゴル族より同民族結婚を望んでいる特徴がある。また、農村地域の民族通婚で、結婚の階層化現象が現れ、また、民族通婚の内訳をみると、モンゴル族の女性がモンゴル族の男性より民族通婚をする傾向がある。このような通婚現象が農村地域のモンゴル族男性が余る傾向の端緒でもある。

第2章 先行研究及び本論の位置づけ

第2章では、まず、結婚に関する家族社会学的研究を、近代的結婚の成立と普及、取り決め婚から自由婚へ変化した過程、結婚難という問題の発生を説明する。次に、本研究のテーマに関連する先行研究をレビューする。①伝統的なフランス農村の独身者及び日本の農村の結婚難に関する先行研究を紹介する。②中国農村地域の男性の結婚難に関する先行研究を紹介し、③モンゴル族の男性の結婚難に関する研究をレビューし、これらの先行研究で明らかにされた知見を確認するとともに、農村地域の男性の結婚難研究の不足点を指摘し、本論の分析視角を提示する。

第3章 調査概要

第3章では、本研究の調査概要について、まず、調査地の概要及び調査地選定の理由を説明する。次に、調査地の背景として、家と家の繋がり、親子関係、婚資の用意について紹介する。続いて、調査方法及び調査対象者を紹介し、調査倫理の遵守について述べる。筆者は2017年から内モンゴル通遼市（旧ジリム盟）ホルチン左翼後旗（科爾沁左翼後旗）モドトソム（茂道吐蘇木）の7つの村（嘎查）の35人（モンゴル族）に調査をしてきた。そのうち、人口は400人前後の村が6つで、800人前後の村が1つで、7つの村とも半農半牧の生活様式をとっている。

第4章 出稼ぎ活動による結婚難に関する調査

第4章では、2017年の第一回目に行った、20～35歳までの既婚男女28人の半構造化インタビュー調査のデータを分析する。既婚男女に対しては、社会人（学校を卒業か中退）になってから結婚に至るまでの出稼ぎ経験や結婚の経歴と村の結婚事情を聞き、一方、未婚男性に対しては、社会人になってから現在に至るまでの出稼ぎ経験と恋愛の経歴を尋ねた。また、未婚女性に対しては、社会人になってから現在に至るまでの出稼ぎ経験と恋愛の経歴、結婚観、将来の生活計画などについて尋ねた。それにより、出稼ぎ活動が調査地の既婚男女の結婚及び未婚男女の恋愛・結婚にいかなる影響を与え、そして調査地の結婚事情がいかなる変化が起きているのかを考察した。既婚男女の結婚までの経歴と未婚男女の現状を考察したところ、出稼ぎが活発化する前は調査地の結婚事情が安定していて男性の結婚難問題がなかったが、出稼ぎが活発化するにつれ、調査地の結婚事情が段々と変容し、男性の結婚難問題が現れ、調査時点の2017年ごろになると、男性の結婚難が深刻化し始めたという結論が得られた。

第5章 39歳モンゴル人未婚男性のライフストーリー

第5章では、第一回目の調査を終え、調査地の男性の結婚難の実態をより明確にするため、村の結婚事情に詳しく、39歳で未婚のままにいるAさんと連絡を取った。そして、2017年9月24日 Skype 国際電話の通話機能を用いて約2時間のインタビュー調査を行った。未

婚男性 A さんのライフストーリーを分析し、20 代前半から 30 代後半に至るまで、どのような人生体験をし、本人はインタビューを通してどう解釈しているか、または村幹部として村の結婚難事情をどう説明しているかについて考察した。結果、20 代結婚適齢期に入ってから現在 30 代後半に至るまで、A さんは結婚への期待→周りの圧力→結婚相手への要求の変化→30 代前後 2 回付き合い→別れ→結婚への断念→彼女できたなどのあらゆる段階を通過していた。また、村の結婚難問題の対象者は現在の 20 代、30 代の人のみであると受け止め、その以降生まれの人は村に戻らないため結婚難が存在しないとしていた。

第 6 章 モンゴル人未婚男性の結婚難をめぐる親子の語り

第 6 章では、未婚男性の S さんに 2017 年一回目の半構造化インタビュー調査を行い、社会人になってから調査時に至るまでの出稼ぎ経験、理想な結婚相手、恋愛経験、結婚に至らなかった理由、結婚事情の変容などを聞いた。そして、6 年後の 2023 年同じ調査項目を含め、未婚のままである 32 歳の S さんに 2 度目に半構造化インタビュー調査を行い、時間や年齢の変化により、未婚男性の結婚相手への要求や本人の結婚への語りの変化を考察した。その補足として、未婚男性の母親にも半構造化インタビュー調査を行い、息子の 20 代前半、20 代後半、30 代前半のそれぞれの段階の嫁への要求及び理由、結婚に至らなかった理由、村の結婚事情の変容などを尋ね、息子の年齢の変化により、息子と将来の嫁に対する要求・期待を把握し、未婚男性の結婚意識への影響について論じた。その結果、結婚難に陥っている当事者である未婚男性の S さんにとって、結婚難の要因が一切変わらないものではなく、年齢の変化によりその結婚難の要因が異なり、未婚男性はその都度それに相応しい行動を取り、結婚に向けて取り組んでいたことがわかった。また、未婚男性 S さんの自身の結婚難への意味付け・解釈やその変化が本人によるもののように見えるが、実は母親は重要な他者として、その言動が意識的であれ、無意識的であれ、息子の S さんの結婚意識に影響を与えていた。

第 7 章 結婚難時代を生きるモンゴル人男性たちの「出会いと結婚」の語り

第 7 章では、2023 年 8 月 20 日から 8 月 24 日までに、2017 年の第一回目の調査対象者の未婚男性の内の 4 人に 2 回目の半構造化インタビュー調査を行い、モンゴル人男性たちは自身の「出会いと結婚」をいかに語っているのか、それが第一回目の調査時との語りとどう変化しているのかを把握し、調査地の結婚難の実態をより明確にすることを試みた。その調査結果、①同じく結婚難時代を生きるモンゴル人男性たちでも自身の「出会いと結婚」に関して異なる意味付け・解釈をしていた。つまり、結婚が難しい社会の中でも、未婚の男性たちが各自で異なる経験をし、その経験に基づいてそれぞれ独自の見解やストーリーを持っていた。②6 年後の調査で、同一人物であっても未婚と既婚状態の語りが異なり、矛盾し、変化していることがあり、「出会いと結婚」の難しさが見えてきた。また、第一回

目の調査と第二回目の調査の語りから、未婚男性たちは出会いがあっても、相互選択や結婚決断に至るまでのプロセスが難しくなっていたことが明らかになった。

第8章 モンゴル人未婚女性が語る結婚相手の選択の実情

第8章では、2024年3月15日から3月18日までに、モンゴル人未婚女性二人に半構造インタビュー調査を行い、男性の結婚難問題が存在している調査地のもう一人の当事者である未婚女性がいかに結婚相手を選択し、将来の生活計画をしているかを把握する。それにより、未婚男性の結婚の成否にいかなる影響を与えているかを論じた。結論として、未婚モンゴル女性は自から結婚の決定権をもち、結婚相手に対して物質的な外的要因よりも、むしろ相手の内面的な魅力に重きを置き、結婚後に安定した生活を送るために、その生活にふさわしい人を結婚相手として選んでいた。

終章 結論及び今後の展開

終章では、第4章から第8章までの実証研究の成果を研究目的と分析課題に即して整理し、総括的な議論を行う。そして、今後の課題について論じる。

本論では、結婚難の当事者であるモンゴル人未婚男性たちがいかに自らの人生を振り返り、自身の結婚難を意味づけ・解釈しているのか、またその語りが加齢と共にどう変化しているかを明らかにしてきた。そして、モンゴル人未婚男性の親の意識やもう一人の当事者であるモンゴル人未婚女性の結婚意識がそれぞれいかにモンゴル人未婚男性の結婚の成否に影響を与えているのかを解明した。その結果、①男性の結婚難の原因はすべての男性にとって同じものだと限らず、また、結婚難の要因が一切変わらないものではなく、未婚男性の年齢によって、その要因が変化していた。②同じく結婚難時代を生きるモンゴル人男性たちでも自身の結婚難に関して異なる意味付け・解釈をしていた。つまり、結婚が難しい社会の中でも、未婚男性たちが各自で異なる経験をし、その経験に基づいてそれぞれ独自の見解やストーリーを持っていた。このように、モンゴル人男性たちは同じ時代背景にありながら、それぞれ異なる経済状況や家族のサポート、また女性側からの要求などに影響され、異なる結婚観や結婚への難しさを抱えている。③2017年と2023年の調査で、未婚男性たちが持つ結婚相手への条件や理想像が変化していることから、彼らが直面している結婚の難しさや、結婚を取り巻く社会的な圧力が強くなっていることがわかった。つまり、同一人物であっても自分の結婚への意味付けと解釈が異なり、変化し、結婚の難しさが見えてきた。④未婚男性の親は重要な他者として、その言動が意識的であれ、無意識的であれ、息子の結婚意識に影響を与えていた。村の結婚難事情の深刻化や息子の年齢が上がるにつれ、親の息子の将来の嫁への要求が弱くなっていたが、Sさんは母親の希望や影響に応える形で行動を制限され、結婚に対する自己決定の自由が大きく制約されていた。⑤未婚モンゴル女性は結婚相手に対して物質的な外的要因よりも、むしろ相手の内面的な魅力に重きを置き、結婚後に安定し

た生活を送るために、その生活にふさわしい人を結婚相手として選んでいた。つまり、未婚女性は交際前に男性をランク付けし、結婚の条件をクリアした男性とだけ交際し、条件をクリアしていない男性は交際前の段階で選択肢から外している可能性がある。

モンゴル人男性の結婚難の実態や特徴をより明確にするため、今後、内モンゴル東部農村地域のモンゴル人既婚男女を対象に調査を実施する予定である。また、この問題を深く理解するため、中国における他の少数民族男性の結婚難と比較し、さらに東アジア農村地域における男性の結婚難の共通点や相違点を検討する。これらの比較を通じて、地域や民族による結婚難の特徴や背景を解明し、より包括的な理解を目指したい。